

## 令和5年度第2回日野町介護保険事業計画等策定委員会議事録

日時 令和5年12月20日(水) 午後2時から午後3時30分  
場所 日野町役場2階 大会議室  
出席者 委員：毛利富士美、小早川統理、松本敏紀、山口浩一、山下弘彦、生田公恵、  
松田暢子、松本晴男、生田明子、細田悦子、音田守  
(欠席)：金田雅夫  
事務局：住田秀樹、生田直子、谷口理恵、音田幸真

委員長：それでは議事進行していく。まずは事務局より計画の素案の説明をお願いしたい。

事務局：第9期日野町高齢者福祉計画 介護保険事業計画の資料をもとに説明する。

5ページ、6ページは国の基本指針より抜粋したものとなっている。

9ページ、10ページは人口構造と要介護認定者数の推移や推計値を表した表やグラフ。

別紙の資料1(中山間地域における高齢者の食料品摂取の状況)の資料をもとに説明する。この資料は農林水産政策研究所が作成、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査をもとにデータを分析されたもの。65歳以上の方1,471名を対象、要支援、要介護者を除いた1,206名に実配布し、806件回収。その中で567件が有効回答として、今回の分析に用いられた。

高齢者の食料品摂取の状況を様々なデータから分析。日野郡3町の比較してあるデータもある。詳しくは資料を参照。

委員：配布数は施設入所者を除いた数か？有効回答とは？

事務局：施設入所者を除いた数。質問項目のうち、どこか欠損している項目あれば無効とし、何も欠損していなければ有効としている。

委員：配布数1,206に対し、回収数806と66.8%。有効回答も567と70%。本データを介護保険事業計画に反映させるなら回収方法や無効回答を少なくする方法を考える必要がある。

委員長：今回の会議では、計画に関しては意見、保険料に関しては答申という形でよいか？

事務局：それでよい。

委員長：それでは次に地域包括支援センターの活動報告についてお願いしたい。

事務局：第9期日野町高齢者福祉計画 介護保険事業計画の資料をもとに主なところを説明する(13ページから)。

日野町の地域包括ケアシステムについて(15ページ)、虚弱になっても重度化を防止していく取組を行なう。

いきいき・かみかみ百歳体操(15ページ)は今年で8年目。48自治会中、43自治会が実施。

24 ページの日野町における地域包括ケアシステムの図について。ボランティア活動の枠にオレンジサロンかわこを、地域密着型サービスの枠に小規模多機能居宅介護きんもくせいを新たに追加。

29 ページの権利擁護事業について。えんくるり事業、生活福祉資金貸付、家計改善支援事業を新たに追加。

委員：重点的に取り組んでいる項目はどれか？

事務局：百歳体操。参加者の高齢化はあるが、続けていけられるように取り組んでいる。

また、オレンジカフェも、ボランティアのみなさんのお陰もあり、続けることができている。

委員：オレンジサロンかわこはどのような方へ参加の声かけをしているか？

委員：オレンジサロンかわこの代表として述べる。月1回水曜日に開催。当初は7、8人の参加者だったが、最近では15人ほどの参加がある。声かけは、少し物忘れがある方や独居の方などへ。内容は主としてはおしゃべり。社協職員も参加されており、社協との関わりもできている。

委員：黒坂のおしゃべりカフェに行っているが、来られているのがどなたなのか分からないこともある。知らない方同士が仲良くなる機会を作ることも大事だと感じた。行きたいけど行けない方もおられると思う。誘うことができたらと思う。

委員長：行きにくい方などは、介護サービスの利用などにつなげていくことも一つだと思う。人によっては自分の弱っている姿を見られたくない方もおられる。その人に合ったものにつなげるためにも、状態によっては選択できるような形がよいと思う。

委員：わすれんぼカフェの代表として述べる。月1回のわすれんぼカフェは普段出会えない方と出会える場。介護サービス利用の方も参加されている。ボランティアの細やかな気配りも一因となって続けられていると思う。見守り活動という側面もあり、チームオレンジとして話し合ってもいる。見守りしている団体は複数あり、見守りの会議も複数あるが、うまく連携できるよう仕組み作りが必要と感じる。医師やケアマネジャーと話す機会が少ない。お互いを分かり合うという意味でも、公的な支援と地域の支援をどのように組み合わせていくかが大事。見える化が必要。

委員長：気になる方がおられたらわすれんぼカフェやオレンジサロンかわこで相談もできる。

委員：民事協ではコロナ禍で集まる機会が減っていた。年度末、定例会と合わせて民生委員と福祉・医療関係者などが集まる機会ができれば。また、それぞれの機関を知るための勉強会を秋までに一度できれば。

事務局：百歳体操は飽きられている面もあるかなと思う。この計画に新しいメニューを追加できれば。例えばeスポーツ（健康ゲーム）というのも、来年のねりんピック

の競技種目でもあり、新しいツールになると思う。

見守りが連携できるような仕組みとして、地域ケア会議の地域版のようなものが考えられる。包括的・継続的な協議体制。ただ、個人情報という側面もあるので、本人同意を得ることなどどのようにできるのか考えていきたい。一方で、地域包括支援センターの担う業務多々有り、職員が疲弊しないためにも職員強化も必要と考える。

委員：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査のアンケートについて、回収数 66%と、日野郡 3 町の中で一番低い。回収数が低い理由を考えると、元気な人がいるからか、もしくは行政のやり方に興味がないかだと思う。

事務局：おそらく後者だと思う。ただ、統計学上、標本が 30%を超えると誤差は少なくなると言われている。今回は 40%を超えているので、アンケートとしては成立すると考えている。

委員：回収されていない方に目を向けて分析をしないといけないのではと思う。

委員：百歳体操という名称で、参加してみたいと思うか。そうは思わない。不健康な人向けでは。

事務局：百歳体操のメニューの追加も含めて名前の変更も検討していきたい。

委員：全国では対象が高齢者だけでなく、子どもなど全世代向けのものもある。体操に音楽を合わせてあるものもある。新しいものが入っているとよいと思う。

委員長：百歳体操の実施団体数という数値目標だけでなく、中身の分析もしてみる必要がある。また教えてもらいたい。

委員長：それでは次の項目、介護給付費と介護保険料について事務局から説明をお願いしたい。

事務局：第 9 期日野町高齢者福祉計画 介護保険事業計画の資料 34 ページ以降を説明する。

介護給付費等について今回の会議ではより実績に近いものがお示しできると思う。

見込みでは、基金を 4 千万円取崩ししていたが、大幅に給付費が減少したため取崩しせず、介護給付費準備基金へ積立てとなる見込み。

40 ページの第 9 期介護給付費推計について、前回の会議でのご指摘を踏まえ、数値を修正した。

42 ページの所得団塊別被保険者数の段階と率についてはあくまでも想定としており、国の動向により変わる可能性もある。次回では決まったものがお示しできると思う。

43 ページの第 9 期介護保険料算出についても、介護報酬改定もあり、給付費が増加する可能性もあり、今回の会議までに再計算してお示ししたい。

委員長：この説明により方向性を共有した。

委員長：これまでの協議事項でご質問はないか？

委員：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の回収について。方法は郵便だった場合、最寄りのポストまで出しに行けられない方もいたのでは。例えばアンケートを自治

会長へ持って行くという方法であれば回収数も増えたのではないか。まだアンケートが出ていない方に自治会長がフォローすることもできる。

委員長：手間になるのかもしれないが、手間と回収率アップとのバランスが大事かと思う。

委員：ケアマネジャーだが、高齢者見守り連絡会に出席して民生委員との交流ができればと思う。

委員：すべての民生委員が集まる定例会が月の第3火曜日にある。年度末は3月19日。時間は調整が必要。

委員：わすれんぼカフェにケアマネジャーも参加できるか？

委員：参加できる。連絡してもらえればと思う。

事務局：前回の会議にて、町中を歩く際、休憩のできるベンチが少ないとの意見があったことについて、木製のベンチを一台確保し、個人宅の前に置くこと了承してもらった。ただ、これから雪が降る時期でもあるため、除雪のこともあり、3月中頃より、ベンチを設置する予定。

委員：江府町で「出かける役場」ができ、その中で見守りや送迎などもできるよう。

委員：送迎で言えば、行政がするのではなく、民間を助ける方法がよいと思う。

委員：見守りで言えば、民間や地域につなげられる、連携、見えるようにしてほしい、これらを要望したい。

事務局：高齢者見守り連絡会を3月に行なうので、その時に全体構想をお示ししたい。

委員：町は自治会を大事にしたいという思いがある。配布物ひとつとっても、例えば町から全世帯へ配布することもできるが、今は自治会を通して配布している。自治会には見守り機能もあるので、自治会を大事にしていくことも大切だと考える。

委員長：それでは議事は以上で終わり、事務局へ進行をお願いします。

事務局：次回の会議は1月を予定し、国の動向も踏まえて最終的な計画をお示ししたい。

以上